

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 10 月 17 日現在

機関番号：33305

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2011～2015

課題番号：23520254

研究課題名(和文) 石川県立図書館蔵川口文庫『和漢朗詠集私注』と『文筆問答鈔』の基礎的研究

研究課題名(英文) Notes on "WakanRoeisyushityu" and "BunpitsuMondosyo" held in the Kawaguchi Collection at Ishikawa Prefectural Library.

研究代表者

柳澤 良一 (YANAGISAWA, Ryoichi)

金沢学院大学・文学部・教授

研究者番号：80123222

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：影印本として刊行した石川県立図書館蔵川口文庫善本叢書2『和漢朗詠集私注・文筆問答鈔』(柳澤良一編・勉誠出版、2010年)のそれぞれの作品について、翻刻と校本の作成及びそれらについてのコメントを付した。

『和漢朗詠集私注』は、『和漢朗詠集』のみならず『新撰朗詠集』の注釈の上でも大いに参考にすることができた。また、『文筆問答鈔』は、平安時代中期の漢詩集『本朝麗藻』の解説にたいへん役立つことが明らかになった。例えば、句題詩や詩序の読み方を説く内容は、これまでの『本朝麗藻』の解釈を一変させるものとなった。

研究成果の概要(英文)：I have formerly published a book of "Wakan Roeisyu shityu and Bunpitsu Mondosyo" with Benseisyuppan in 2010. This time I analyzed both of these books. Analyses are the "Honkoku", making the "Kohon", and adding notes to difficult words.

The results are as follows. The detailed notes are very helpful when I decipher "Wakan Roeisyu" and "Shisen Roeisyu". And "Bunpitsu Mondosyo" helps understand Chinese poems and prefaces of "Hontyoreiso".

研究分野：人文学

キーワード：石川県立図書館 川口文庫 和漢朗詠集私注 文筆問答鈔 本朝麗藻 漢詩 詩序

### 1. 研究開始当初の背景

(1) 影印として出版した石川県立図書館蔵川口文庫善本叢書2『和漢朗詠集私注・文筆問答鈔』(柳澤良一編・勉誠出版、2010年)の翻刻の必要性を感じ、またその「注」についてのコメントを付す必要があると考えた。

(2) 『和漢朗詠集私注』は『和漢朗詠集』の解釈等に資することはもちろんであるが、『文筆問答鈔』も、平安時代の漢詩や詩序の成り立ちや解釈等に資することが期待された。

### 2. 研究の目的

石川県立図書館蔵川口文庫の中から、平安朝の漢詩文関係の貴重書である『和漢朗詠集私注』と『文筆問答鈔』について書き込みが多く、従来知られている宮内庁書陵部本、京都大学図書館本、内閣文庫本の写本や寛永6年(1629)刊本とも全く異なる貴重本である。また、『文筆問答鈔』も、尊経閣文庫本と近い関係にはあるものの相違は少なからぬものがあり、改変の加えられた版本(内閣文庫本)を解説するのにも、また尊経閣文庫本の解説を補うにもたいへん有益である。

このように、今まで全く知られていなかった川口文庫本の中の貴重書である『和漢朗詠集私注』と『文筆問答鈔』についての基礎的研究を通して学界に裨益したいと考えた。

### 3. 研究の方法

- (1) 『和漢朗詠集私注』を翻刻する。
- (2) 他本と比較することによって、川口文庫本の特徴を考察する。
- (3) 『和漢朗詠集』の解釈等の考察をする。
- (4) 『文筆問答鈔』を翻刻する。
- (5) 他本と比較することによって校本を作成し、次いで川口文庫本の特徴を考察する。
- (6) 『本朝麗藻』の詩序や漢詩の詠法との比較・考察

### 4. 研究成果

(1) 影印本として出版した石川県立図書館蔵川口文庫善本叢書2『和漢朗詠集私注・文筆問答鈔』(柳澤良一編・勉誠出版、2010年)を翻刻しつつ、その「注」についてのコメントを付し、その際、太田次郎「釋信教とその著作について—附・白氏新楽府二種の翻刻—」(『斯道文庫論集』第5輯、1967年)、栃尾武『和漢朗詠集私注』(新典社、1982年)、三木雅博「『和漢朗詠集私注』の方法」(『和漢朗詠集とその享受』勉誠社、1995年)、『和漢朗詠集古注釈集成 第1巻』(大学堂書店、1997年)等を参考にし、また国文学研究資料館所蔵の影印本数種類、内閣文庫及び国立国会図書館などの諸本をも参考にして、「石川県立図書館蔵川口文庫『和漢朗詠集私注』の研究」として発表した。

石川県立図書館蔵川口文庫本『和漢朗詠集私注』は、宮内庁書陵部本、東京大学国語研究室本、京都大学図書館本、内閣文庫本、東洋文庫本などの写本とも、また寛永6年刊本とも比べて、書き込みがたいへん多いことで知られていて、翻刻する価値が十二分にあるとされている。

その結果、新発見としては、漢詩文の撰は藤原公任で、和歌の撰は堀川院の時で、藤原師頼等によって、「詩文が能く相応」ずるように古歌を撰入させたものであるという、『和漢朗詠集』成立の新説が出ていることを指摘した。また、これらは従来からの指摘もあるが、『和漢朗詠集』が藤原公任撰であること、また、藤原道長の二男教通と公任女の結婚の引出物として用いられたこと、さらに高倉院の時、蔵人の光弘が注を付けて6巻としたこと、私注の「私」の意味は、光弘が出家して南都に住んでいた時の作だからということなどを紹介した。

(2) 「石川県立図書館蔵川口文庫『和漢朗詠集私注』の研究(二)」として発表した。

この中で、「和漢」の「和」は本朝の、「漢」

は中国の、それぞれ漢詩文を指し、従来の説のように「和歌」と「漢詩文」ではないとすることを指摘した。つまり、『和漢朗詠集』は、もとのかたちが本朝と中国の漢詩文を集めたものであって、和歌はもともと入っていなかったということ川口文庫本『和漢朗詠集私註』は言っているのである。しかも、漢詩文の撰は藤原公任がおこなったが、後になって（院政時代）和歌を入れるとき、和歌は源師頼が中心になって「詩文が能く相応」するように配慮されて撰入されたこととあることを指摘し、『和漢朗詠集』の成立過程そのものについて新たに考察する必要があることを論じた。川口文庫本の翻刻については手もとのメモにとどめ、緊急性のある論点についてのみ発表した。

(3) 影印本として刊行した石川県立図書館蔵川口文庫善本叢書2『和漢朗詠集私註・文筆問答鈔』（柳澤良一編・勉誠出版、2010年）の『文筆問答鈔』について、翻刻と校本の作成及びそれらについてのコメントを付した。すなわち、前著の中の「解説」に一部、翻刻本文も載せたが、今回は改めて全文を翻刻し、主要な写本や刊本（尊経閣文庫本・内閣文庫本等）との校合を行い、校本を作成することによって、従来、最も古い写本とされた尊経閣文庫本よりもさらに古い、川口文庫本『文筆問答鈔』の考察を新たに行った。

「石川県立図書館蔵川口文庫『文筆問答鈔』の研究（1）」、「石川県立図書館蔵川口文庫『文筆問答鈔』の研究（2）」を発表した。その(1)は、『文筆問答鈔』の成立と著者印融についての考察、書誌、翻刻、校異（尊経閣文庫本・内閣文庫本・神宮文庫本・京都大学附属図書館本・龍谷大学図書館本）、校訂本文で、そのうちの校訂本文には校訂注記と注を付け、本書の内容や価値について記し、「四、発句・腰句等の事」までを載せた。その(2)は、同様の方法で「七、序と詩との作

軀の事」までを載せた。

これらの論文で、「文筆」の別についての見解が六朝時代の『文心雕龍』やわが国の『作文大体』に重なること、「絶句・律詩」の詠み方・構成については『作文大体』に重なる部分はあるものの、本書独自の見解が見られ、それが平安朝の漢詩を読み解く鍵になっていることなどを述べた。また、校本を作成する過程で、内閣文庫本は本書や尊経閣文庫本の足りない所を補う価値はあるものの、一方で誤った増補もあり、本書の価値が一段と優っていることも明らかにすることができたと思う。

(4) 「石川県立図書館蔵川口文庫『文筆問答鈔』の研究（3）」、「石川県立図書館蔵川口文庫『文筆問答鈔』の研究（4）」及び「平安時代寛弘期の漢詩の作り方について—『文筆問答鈔』を通して見えてくるもの—」を発表した。

これらの論文で、詩序は『王沢不渴鈔』下に、漢詩は『王沢不渴鈔』上と密接な関係のあることがわかった。したがって、校異にも『王沢不渴鈔』を付け加えた。また、大阪府立大学附属図書館『王沢不渴鈔』が、内容の理解にはたいへん役に立つこと、また、漢詩の詠み方について、特に句題詩の胸腰句が句題の内容を二つに分解して詠むべきことなどを指摘して、そのことが平安時代寛弘期の漢詩の詠法と一致していることを発見した。『国語と国文学』に発表したことは、今後の漢詩解釈の方法に大きな影響を与えることと思う。

(5) 「石川県立図書館蔵川口文庫『文筆問答鈔』の研究（5）」、「石川県立図書館蔵川口文庫『文筆問答鈔』の研究（6）」、「石川県立図書館蔵川口文庫『文筆問答鈔』の研究（7）」を発表した。

これらの論文で、詩序は『王沢不渴鈔』下

に、漢詩は『王沢不渴鈔』上と密接な関係のあることがわかった。したがって、校異にも『王沢不渴鈔』を付け加えた。また、大阪府立大学付属図書館『王沢不渴鈔』が、内容の理解にはたいへん役に立つこと、また、漢詩の詠み方について、特に句題詩の胸腰句が句題の内容を二つに分解して詠むべきことなどを指摘していて、そのことが平安時代寛弘期の漢詩の詠法と一致していることを発見した。このことに基づいて、平安時代寛弘期の漢詩や詩序の作り方について根本的な見直しをし、現在、新しい『本朝麗藻』の注釈を発表するために原稿作成中である。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 10 件)

柳澤良一、石川県立図書館蔵川口文庫『文筆問答鈔』の研究(七)、金沢大学 国語国文、査読有、第 41 号、2016、1-14

柳澤良一、石川県立図書館蔵川口文庫『文筆問答鈔』の研究(六)、北陸古典研究、査読無、第 30 号、2015、20-37

柳澤良一、石川県立図書館蔵川口文庫『文筆問答鈔』の研究(五)、金沢学院大学紀要文学・美術・社会学編、査読有、第十四号、2016、1-12

柳澤良一、平安時代寛弘期の漢詩の作り方について―『文筆問答鈔』を通して見えてくるもの―、国語と国文学、査読有、第 91 巻第 12 号、2014、3-16

柳澤良一、石川県立図書館蔵川口文庫『文筆問答鈔』の研究(四)、金沢大学 国語国文、査読有、第 40 号、2015、9-17

柳澤良一、石川県立図書館蔵川口文庫『文

筆問答鈔』の研究(三)、金沢学院大学紀要文学・美術・社会学編、査読有、第十三号、2015、94-104

柳澤良一、石川県立図書館蔵川口文庫『文筆問答鈔』の研究(二)、金沢大学 国語国文、査読有、第 39 号、2014、5-17

柳澤良一、石川県立図書館蔵川口文庫『文筆問答鈔』の研究(一)、金沢学院大学紀要文学・美術・社会学編、査読有、第十二号、2014、154-143

柳澤良一、石川県立図書館蔵川口文庫『和漢朗詠集私註』の研究(二)、金沢大学 国語国文、査読有、第 38 号、2013、1-3

柳澤良一、石川県立図書館蔵川口文庫『和漢朗詠集私註』の研究、金沢学院大学 文学・美術・社会学編、査読無、第十号、2012、97-103

[学会発表](計 0 件)

[図書](計 0 件)

[産業財産権]  
出願状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

[その他]  
ホームページ等  
なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

柳澤良一 (YANAGISAWA Ryoichi)

金沢学院大学・文学部・教授

研究者番号：80123222

(2) 研究分担者

なし ( )

研究者番号：

(3) 連携研究者

なし ( )

研究者番号：

(4) 研究協力者

なし ( )